

ハ雜木ヲ以作リタル器之如ナレバ、根ノトクル人鮮シ、都而上方之内別而京伊勢ノ風儀、女人之形莊最善シ、男ハ心不定而頼スクナシ、亂世之時ハ、昨日味方タリシ人モ今日ハ敵トナリ、主ハ被官ニ被見放子ハ親ヲ捨テ敵ト成ノ類ハ、南伊勢之風俗也、北伊勢ハ約而違フ事アレバ、赤面ヲナス、意地アレバ義ヲ以是ヲ可看、南伊勢ハ達亂威光嚴ヲ以是ヲシメサバ、即時ニ可傾也。

〔日本鹿子六〕同國○伊勢名所之部

鈴鹿山 坂の下より土山へ越る間也、坂の上に鈴鹿御前と云宮あり、○歌

八十瀬川 俗に鈴鹿川と云、關の宿より鈴鹿の坂下迄、同じながれを幾度と云ことなくわたる也、玄かるゆへに八十瀬川と云にや、○歌

阿野の松原 鈴鹿より六里東也、○歌

錢掛松 豊國野 安部郡なり、むかし西國の人參宮せしに、此松に錢壹貫文かけ置、本國にかへりしに、此錢人のめにはへびになりて見ゆる、それより三ヶ年過て又かの錢ぬし參宮の節、此錢を取て參宮をせしと云傳ふるも此所の事也、

星川 朝明の里 海の宿也、日永川と云あり、阿野より行程三里也、川は北より南へながれたり、浦ちがき所なり、

桑名 目永の宿まで三里なり、桑名も海邊なり、○歌

竹の宮 齋宮の御座所也、山田より三里計北也、海邊也、柳田川雲津川と中間近し、○歌

宮川 山田の入口也、此川にて參宮の人祓をする也、○歌

天照篇 俗に天の岩戸といふは外宮の上也、南方に山あり、此山に岩戸有之、神路山といふ、岩戸

南向也、山は高からず、○歌

五十鈴川 内宮へ參詣の人、此川にて祓するなり、此川は御山より西也、南より北へ流たり、御も